



「飛島には海も山もあるので、いろんなことにチャレンジしたいです」と語るのは、2人目の緑のふるさと協力隊員として今年4月から飛島に派遣された神庭さん。大学時代、自然環境の保護と過疎地域の生活に関心を持ったことから、緑のふるさと協力隊に応募。いくつかの候補先の中から、あえて行ったことのない飛島を希望したそうです。

新しいユニバーシティ



今月の人 Kanba Yuto

神庭 友人 さん(東京都出身、飛島在住)
緑のふるさと協力隊員

さかたの風

初は方言が分からず、地域に溶け込めるか不安もあったそうですが「毎日新しい経験ばかりで、とても楽しいです」と笑顔で話してくれました。住み始めた日がちょうど祭りの期間だったこともあり、島の人と一緒に酒を飲み語り合ったことをき

「飛島での生活の感想を聞くと、最初は方言が分からず、地域に溶け込めるか不安もあったそうですが「毎日新しい経験ばかりで、とても楽しいです」と笑顔で話してくれました。住み始めた日がちょうど祭りの期間だったこともあり、島の人と一緒に酒を飲み語り合ったことをき

飛島の魅力を知ってほしい

かけに温かく迎えてもらえたと振り返ります。神庭さんは、なるべく早く自分のことを覚えてもらおうと、写真と名前、電話番号を書いた自己紹介カードを作って一軒ずつ配ったそうです。今では漁で捕れた魚を分けてもらったり、「ごはんを食べるおいで」と誘われたりすることもあるとか。時間のある日はバイクで島を回り、自分から積極的に漁や畑の手伝いをするなど、地域の人のつながりを大切にしています。

「酒田に住んでいても飛島に行つたことがない人が多いと聞きました。飛島に来て、一緒に飛島の魅力を探してほしいですね」と語る神庭さんの日焼けした笑顔を見て、トビウマカンゾウが風に揺れる夏の飛島に行きたくなりました。

フォトギャラリー

思い出のまち 15



海の記念日と海洋少年団

昭和42年7月20日、海の記念日を祝い海洋少年団によるブラスバンドが市内を行進しました。この日から港まつりが始まり、8月初旬までの期間に花火大会や仮装行列などの多彩な催しが行われました。

トビウオだしのそうめんつゆ

【材料】5~6人分

- ・水……………1,400cc
- ・トビウオの焼き干し……………2尾
- ・酒……………200cc
- ・みりん……………160cc
- ・しょうゆ……………200cc
- ・コンブ(10号の長さ)……………1枚

【作りかた】

- ①鍋に水を張りトビウオの焼き干しとコンブを入れ、20分ほど浸す。
- ②①を火にかけ、沸騰したらコンブを取る。トビウオはそのまま入れておく。
- ③②に酒、みりん、しょうゆを入れ、沸騰したら弱火で4分~5分煮る。



酒田の味

38

昔ながらの酒田の味
酒田市食生活改善推進員が紹介します

ラーメンのだしにも使われる飛島の特産品「トビウオの焼き干し」は、飛島の皆さんが一つひとつ丁寧に手作りしています。今が旬のトビウオの豊かな風味と香りを楽しんでください。

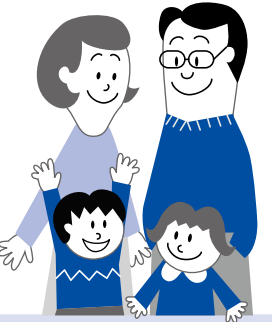
食生活改善推進員からの

だしを取った後のトビウオもおいしくいただけます。

ワンポイント



子育て講座



●お問い合わせ／市子育て支援課こども育成係 ☎26-5734

子育て応援団

生まれて5か月になるマーちゃんはお父さんとお母さんの三人家族です。昼間は、目下育児休業中のお母さんと過ごしています。お母さんは「マーちゃんは近頃、お父さんが夜に仕事から帰ると、私には見せないような笑顔を見せる」と言います。お父さんは「高い、高い」をしてくられたり、くすぐったり、面白い顔をしたりと、お母さんと一味違う接し方をしてくれます。こんなお父さんとのやりとりがうれしいのでしょうか。子どもが幼いうちは、母親が育てるのが一番という考え方がありますが、子どもは、自分が求めているものを察して、それに応えてくれる人が大好きです。生まれた当初こそ母親との結び付きが強いのですが、周りの人との関わりが豊かになるにつれ、次第に複数の人を頼りにするよ

東北公益文科大学教授
國眼 眞理子 先生

うになります。眠いときやおなかですいたときにはお母さんのところ、遊びたいときにはきょうだいのごろ、外へ遊びに行きたいときにはお父さんのところへとといった使い分けをするようになります。ちなみにマーちゃんは、寝るときには、お母さんよりもお父さんの方がいいようです。子どもが健やかに育つためには、大人の助けが必要で、子どもにとってはお母さん一人よりも、多くの人から世話を受けられる方が好都合です。子どもはお乳をくれるから、あるいはいつも一緒にいるから、その人と気持ちが通い合うようになるわけではありません。お母さんがゆとりを持って子どもに接することができるように、子育て応援団は多い方がいいですね。



高齢者虐待を防ぐために

●お問い合わせ／市介護保険課予防支援係 ☎26-5755

介護を必要とする高齢者の増加により、高齢者虐待が誰の身近にも起こり得る問題となってきました。昨年度、本市に寄せられた通報は39件、うち虐待があったと判断された件数は17件です。それでも、早期の発見によって深刻な事態になることを防ぐことができたものも多くあります。

高齢者虐待は、さまざまな要因が重なり合って発生するものです。その背景や状況を正確に把握することは難しいことですが、早期の発見により、虐待の深刻化を防ぐことができます。身近な高齢者の状況で何か気付いた

ことがあったら、お住まいの地域の域包括支援センターや、市介護保険課に相談してください。相談の際は「虐待であるという証拠」は必要ありませんし、「虐待の恐れがある」と思った段階で構いません。市や地域包括支援センターの職員は、誰からの通報・相談か分からないように対応を開始しますので、連絡をいただいた方の名前が相手方に伝わることはありません。高齢化社会の中、住み慣れた地域で幸せに暮らしていくためには、地域で支え合う力が大切だといわれています。高齢者虐待もまた、地域に暮らす人をはじめとする多くの目が見守ることによって防ぐことができます。

酒田市地域包括支援センター (対象地域)	電話
なかまち(琢成、松陵)	23-5591
にいだ(浜田、若浜、飛鳥)	22-2640
はくちょう(亀城、港南、松原)	21-0818
あけぼの(富士見、泉)	26-7789
かわみなみ (浜中、黒森、十坂、宮野浦、新堀、広野)	92-3451
ほくぶ(南遊佐、鳥海、西荒瀬)	28-2002
ひがし(東平田、中平田、北平田)	94-2470
やわた(八幡地域)	64-3777
まつやま(松山地域)	61-4033
ひらた(平田地域)	52-3895